

# OKoTaC 通信

オコタック

2015年8月20日発行

## NO.24

府立高校生  
通訳ボランティア

### 中文



大阪市交通局 おおさかこども多文化センター



地下鉄ボランティア活動時装着ビブス



#### P 2 NPO活動報告(1)

府立高校生による地下鉄通訳ボランティア

#### P 3 NPO活動報告(2)

「大阪府公立高校進学フェア」通訳業務を受託しました  
セミナー『外国人と日本人がともにつくる絵本活動』

#### P 4 大阪府立高校の特別枠校紹介⑤

『成美高等学校』(堺市)

#### P 5 Air Mail メキシコ便り②

『チワワ州・銅溪谷』

#### P 6 みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ④

『プラスかマイナスか』

#### P 7 特別寄稿

『Making the Invisible Visible - 不可視化されている人々の可視化を -』

#### P 8 イベント情報

『多文化にふれる えほんのひろば 2015』





# おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

## 府立高校生による地下鉄通訳ボランティア

『OKoTaC 通信 23号』でお知らせしましたが、この夏休みにオコタックは大阪市交通局・府立高校3校(門真なみはや・桃谷・八尾北)と協働で、大阪市営地下鉄駅で「府立高校生の中華圏観光客通訳ボランティア」を企画、実施しました。

活動は6月の試行2回を含めると15日間で、9時から11時半まで2時間半。実施駅は御堂筋線梅田、心齋橋、難波、堺筋線日本橋の4駅。延べ70人の生徒が参加しました。この様子は「毎日新聞」夕刊(7月14日)、毎日放送「ちちんぷいぷい」(7月31日)及び関西テレビ「ゆうがたLIVE ワンダー」(8月21日)などで紹介されました。(大阪市のボランティア・市民活動誌『COMVO』10月号でも紹介予定です)

切符自動販売機の前で困っている観光客に生徒が中国語で話しかけたとき、ほとんどの方はほっとした表情になり、あれこれと生徒に聞いていました。

そして、なにより生徒たちが自信を持って誇らしげに案内している姿を見ることができ、この企画は成功だったと確信しました。

### この企画のめざしたもの

～ 「渡日生」の存在を広めたい～

企画の目的は観光客へのサポート、大阪市交通局サービスマネージャーの通訳サポート等、多々あるのですが、そのうちのひとつが「渡日生徒の存在を世の中に知ってもらうこと」です。オコタックでは渡日生の就労支援を活動目的の一つにしてきましたが、その中で多くの課題があることに気づかされてきました。たとえば「渡日生」の存在が私たちが考えるほど世の中に知られていないことです。一般的に外国から来た学生と言えば「留学生」としか認識されません。「留学生向け企業説明会」などはありますが「渡日生」を対象とするようなものはもちろんないし、企業の採用担当者やハローワークなど行政の関係者の間でも渡日生についてはあまり知られていません。

個人差はありますが、ほとんどの渡日生は留学生に比べ、日本社会に定着しており、日本の習慣・文化などに理解があります。また、母語と日本語も使いこなせる渡日生も多く、日本企業で就労する場合でも留学生よりも日本企業にとって有益である場合が多いはず。それにもかかわらず、現実には政府の「留学生30万人計画」のように、社会では留学生が注目されており、渡日生の存在には目が向いていないのが現状です。なんとか「渡日生」の存在に気づいてもらえないかと考えていたとき、思い付いたのがこの企画です。

おかげさまで、マスコミにも好意的に取り上げていただき、「渡日生の存在の認知度を高める」という目的の一つは多少とも達成できたのではないかと自負しています。

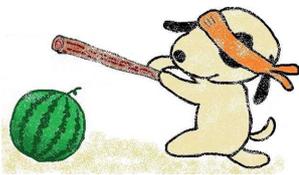
### 今後の展開 ～ 中国語に加え英語通訳ボランティアも～

今後は、この活動の改善すべき点などを関係団体等と総括し、新たに発展させた企画にしたいと考えています。たとえば今回の活動で英語通訳の機会も多いことが判明しました。今回は呼びかけることができなかったフィリピンにルーツを持つ生徒など英語圏の生徒にも声をかけ、ボランティアの機会を作りたいと考えています。(Y.H)



## 国をつなぐ若者たち

大阪府立高校生の中国籍生徒が、大阪府内各地の地下鉄駅で通訳ボランティアとして活動している。彼らは、母国と日本をつなぐ架け橋として、観光客へのサポートや、地元企業との交流に貢献している。この活動は、大阪府立高校生の国際交流の取り組みの一環として行われている。



## おおさか子ども多文化センター 活動報告(2)

### 「大阪府公立高校進学フェア」通訳業務を受託しました

7月26日(日)、心配されていた台風12号の影響もなく、猛暑の中、大阪府公立高校進学フェア2016(主催:大阪府教委)がマイドームおおさかで開催されました。今回で6回目の開催になりますが、来年度大阪府公立高校の入試制度(※)が大きく変わるので、今年は特に来場者が多かったようです。府教委発表では2万名近い生徒・保護者等の来場があり、会場は熱気に包まれていました。フェアのプログラムは、大スクリーンを用いた入学者選抜制度の説明と、各ブースでの個別相談の2部構成です。府内の全公立高校のPRと奨学金情報などのために設けられた計200ものブースでは、熱心に質問や相談をされている様子が見られました。



オコタックは、今年度から進学フェアの通訳業務を受託して、6言語の通訳者を派遣しました。私も通訳コーディネーター、スペイン語通訳として参加してきましたが、事前の周知が十分でなかったため、通訳が活用される機会が少なかったのは残念でした(通訳業務5件)。それでも、今年は総合受付の横に通訳のコーナーを設けてもらったので、来場者全員に通訳の存在をアピールすることには成功し、外国ルーツの生徒が多くいる高校はどこかといった相談に立ち寄られる保護者もいました(相談業務2件)。来年度は、通訳付きの進学フェアであることをチラシに明記するなど、広報をより充実してもらえよう、府教委に要望を出しました。(Y.M)

[※新しい入試制度については、府教委HP <http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/> を参照]



### セミナー「外国人と日本人が ともにつくる絵本活動」開催

7月29日(水)、大阪市立総合生涯学習センターにて、上記セミナーを開催しました。講師は、東京で絵本を使った多文化交流活動やマルチメディアDAISYの多言語版の作成・普及に取り組んでおられる、“多言語絵本の会 RAINBOW”の石原弘子さん。長年、地域に住む外国人の方々や地元の小学校などを訪れ、子どもたちに外国語での読み聞かせや異文化紹介をされてきた石原さんの、豊富な実践にもとづいた様々な「交流のヒント」をうかがおうと、事前申し込みの段階からキャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりです。当日は日本人22名、外国人12名が参加しました。



日本の絵本をインドネシア語で…  
(左が石原さん)

石原さんは、もともとは地域の日本語教室で出会った外国人のお母さんたち、特にヨーロッパ語圏の出身ではない人たちにも自分たちの母語や文化に誇りと自信を持ってもらいたいと、この活動を始められたそうです。今回紹介された絵本や異文化体験の実践例の中にも、それらの国々の珍しい作品や遊びがいろいろ盛り込まれていて、参加した各人がすぐにでも自分たちの地域で試してみることができそうな、とてもすてきな内容でした。参加者の一人、韓国出身の李聖淑(イ・ソンスク)さんが、感想を寄せてくださいましたので紹介します。(A.N)

★ ★ ★

「受付で渡された紙に書いてある言葉を使って、今から隣の人と挨拶をしてください」といわれ、私も「Habari ya Asubuhi; ハバリ ヤ スブヒ(ケニアの挨拶)」と、どの国の言葉か知らないまま挨拶を交わしました。ほとんどの参加者が、話す方も聞く方も「えっ!これ何の言葉?」と驚きながらも、興味津々のようでした。

絵本の多言語読み聞かせでは、二つの言葉のリズムや響きを楽しみ、絵本を通して異文化に触れるよう工夫されていることに感心しました。また異文化紹介活動の例では、日本語と中国語の漢字クイズや、アリ・ゾウ・人が登場するインドネシアのジャンケンなど、同じものでも国々に見られる違いが非常に新鮮でした。さらにセミナーの後半では、参加者同士が異文化紹介の方法について話し合い、様々な紹介方法を知る有意義な時間を持つことができました。

セミナー全体を通して、絵本を用いて異文化を楽しめるということ、またその楽しさが異なる国の文化や人々への理解に繋がることを感じ、絵本を用いることの可能性について考えることができました。(李聖淑)



## 大阪府立高校の特別枠校紹介⑤

### ～ 成美高等学校 ～

成美高校は、上神谷高校と美木多高校が統合整備され、2003年度から開設された学校です。上神谷高校には中国人生徒が在籍しており、中国人の先生と協力しながら日本語指導や母語指導、中国文化を保障する取り組みが行われていました。成美高校はそれを継承発展させる取り組みを進めてきました。また2003年度入試から「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」校に指定され、毎年10名を超す外国人生徒が入学してきています。中国人生徒をはじめとする外国人生徒を支援するためには体系的・組織的に対応する必要があり、「中国帰国・渡日生徒ならびに外国人生徒教育指針」を策定しています。そして、それに基づき人権教育推進委員会やCF委員会（中国帰国生徒及び外国人生徒に対する検討委員会）では日常的に生徒の情報交換を行い、また担当者が生徒の学習指導や進路指導、カウンセリングや保護者の生活相談、諸届けの援助、通訳、通訳者の手配など、外国人生徒や保護者にかかわる様々な支援を行っています。



創立10周年式典（中国文化春暁倶楽部）

現在、中国・フィリピン・タイ・パキスタン・ペルーにルーツをもつ生徒が在籍しています。学習面での支援として、生徒の日本語力や学力に応じて抽出授業を行い、放課後7限授業では日本語指導や母語指導・教科指導を行っています。中国語・第1言語の講座を開設し、母語保障にも取り組んでいます。また外国人生徒の民族的アイデンティティを保障し、生徒・保護者を支援する組織として、中国人生徒が所属する中国文化『春暁』倶楽部と、中国以外にルーツを持つ生徒が所属する国際文化部（ONE WORLD）があります。（特別枠入試で入学してきた生徒以外の外国人生徒や日本人生徒も所属しています）

中国文化『春暁』倶楽部は毎日7限が終わってから遅くまで獅子舞や龍踊り、民族舞踊の練習に励んでいます。中国文化の素晴らしさを広めるために、新入生歓迎会や文化祭などの学校行事はもとより、様々な地域での国際交流フェスティバルや人権啓発活動、地域の祭り、小・中学校での人権研修会や総合学習、老人ホームでのボランティア活動など、様々な場所で年間40回を超える活動を繰り広げています。

国際文化部（ONE WORLD）は地域の保育所や老人ホームでのボランティア活動を定期的に行ない、市

外教が開催する集いや国際交流フェスティバルに参加したり、地域での「多文化料理教室」も開催しています。

また両部とも、人権ホームルームや総合的な学習の時間で実施している「中国文化理解HR」（1年）や「多文化理解公演会Ⅰ・Ⅱ」（全学年）で司会や運営を担当し、学校の多文化理解教育に大きく貢献しています。同時に生徒たちのアイデンティティの確立や成長にも、おおいに役立っています。



老人ホームボランティア（国際文化部）

〒590-0137 堺市南區城山台 4-1-1 TEL : 072-299-9000

（大阪府立成美高等学校 教諭 米谷 修）



海外からのたよりをお届けします～

## メキシコ便り ㊟ 「チワワ州・銅溪谷」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

レコウアタの温泉でほっこりした次の日、チワワ観光のハイライトともいべき銅溪谷に行こうと朝 10 時半のバスに乗りましたが、今までつきについていた私の運もここで終わり、最悪の日になりました。というのはバスに乗って 10 分もしないうちに道路をパトカーが通せんぼしています。どうしたのかと聞くと世界自転車競技会があり道路を使っているそうで、通れないから戻れというのです。仕方がないのでバスは戻り、料金を払い戻してもらい、自動車で行こうと駅に行きました。しかし、脱線事故が起こり不通だということです。「えー」みんな困っていると一人の男が近づいてきて、150 ペソ(約 1500 円)出したら銅溪谷まで車で連れて行くというのです。政府が出した特別の許可証を持っているとかで、バスにも自動車にも乗れなくて困っている人たちの間で客を募っています。普通にバスに乗っても往復 100 ペソ(約 1000 円)かかるので、私はまあいいかと乗り込みました。するとやはり同じ場所で通せんぼです。でも今度は運転手が警官となにやら話していたかと思ったら、なんとパトカーが道をあけたのです。そこで戻ってきた運

転手に、「たくさんお金が必要だったんじゃないの？」と聞くと、凶星をさされたのか苦笑していました。すんなり通れた道路は自転車など 1 台も通っていません。私がそのことをいうと、運転手は「これがメキシコだよ」と小さく答えました。

メキシコシティで地下鉄が 30 分も来ない時、また地下鉄の運転手の荒い運転で急ブレーキをかけられ、倒れそうになった時、断水が 4 日間も続く時、道路の大きな穴ぼこがいつまでもそのままの時、役所で窓口をばしごさせられる時、そんな時メキシコ人は時に自嘲的に、時に軽く笑いながら、そして時にあきらめきった表情で「ここはメキシコだからね」といいます。私はこの言葉は、あまりにも多すぎる不条理に対

して自分自身を納得させようとするメキシコ人のちょっぴり悲しい「生活の知恵」なのだと思います。

そして、すったもんだしながら 1 時間あまりで着いた銅溪谷はとても雄大な景色が広がり、そのスケールの大きさに息のみました。展望台近くで民芸品の店を開いている店主のフィラが「断崖の頂上に家が見えるだろう」と双眼鏡を貸してくれました。見えました、見えました、小さな白い家が。そこからここまでは徒歩で 3 日かかるそうですが、タラウマラの女性たちはフィラの店に置くための民芸品を運んでくるそうです。高さ 1300 メートルはあるという、その家のある切り立った絶壁に立てば、足がすくんで動けなくなりそうで、本当にすごいところに住んでいるなとつくづく感心してしまいました。

展望台あたりをぶらぶらし、私をここまで乗せてきた運転手が 1 時間後に来いといった約束の場所に行きましたが彼はまだ来ていません。そして遅れること 30 分、自分をガイドだといっていたのでこれからどこかに案内でもしてくれるのかと思いきや、昼ごはんを食べに行くというのです。仕方がないのでつきあいましたが、露店のおばちゃんやその娘さんをひやかしながら 1 時間半、ぐだぐだしています。「このあとどうするの？」といえば帰るというのです。「えー、もう帰るの？ 帰りは夕方の 6 時になるというから、ホテルを予約したのに、今帰るのだったらチワワ行きのバスに間にあうじゃないの」とばかり、運転手をせかして車に乗りましたが、なんと 15 分ほど走るとまた大きな車が道路を通せんぼしています。谷底に落ちたトレーラーを引き上げているのです。オー・マイ・ゴッド、これで完全にバスの時間には間にあいません。私の運も尽きた本当にさんざんな 1 日でした。





## みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ④

伊東 和子(おおさかこども多文化センター 会員・日本語教師)

### 【エピソード4】 プラスかマイナスか

「先生、“やんちゃ”は、いいことにも使いますか？」学生からの質問です。

『彼は若いときはやんちゃだったが、今はすっかり落ち着いている』という文が出てきたときのこと。私たちの普段の発想にはない視点だったので、えっと思いました。その後、他の学生から何回か同じような質問を受けました。

その単語や表現がプラスのイメージなのか、マイナスのイメージなのか。これは日本語学習者には大事な視点の一つだと考え、以来、日本語ボランティアさんを対象とした講座でも、この話題を、形容詞の話の中などに取り入れています。

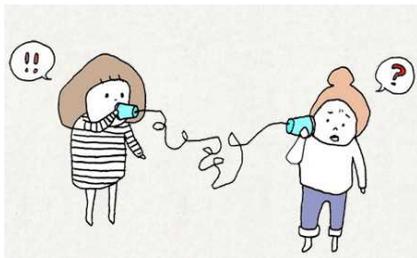


例えば、『下の形容詞をイメージで二つに分けてください』という課題を出します。

《 親切的な 反抗的な なまいきな おだやかな  
りりしい 優しい 騒々しい けばけばしい 》

何を基準に分けるのかに気づけば簡単なのですが、最初は首をかしげる人がほとんどです。誰かが、分ける基準はプラス・イメージ、マイナス・イメージなのだと気づくと、受講者からは「なるほど」という反応が返ってきます。

さらに、それぞれの言葉を、イメージが反対の言葉に言い換えてみます。“親切的な”なら“おせっかいな”。『大阪のおばちゃんは親切だ』はプラス・イメージですが、『大阪のおばちゃんはおせっかいだ』だとマイナスですね。『彼女は反抗的で、いつも親に食ってかかる』をプラスに言い換えるのであれば、『彼女は自分の考えをしっかりと持って、親のいいなりににはならない』あたりでしょうか。



もちろん、どちらのイメージにも使う言葉も多いですし、ニュートラルな言葉が多いことは言うまでもありません。例えば“おとなしい”。『次男はおとなしくて、長男にやられてばかりいる』はマイナスですが、『長男が暴れん坊なのに引き換え、次男はおとなしくて手がかからない』となると話し手はプラス・イメージを持っています。最初の例の“やんちゃ”でも、例文はマイナス。『子どもはやんちゃなぐらいがいい』だったらプラスです。

『このレストランはおいしいです』、『このレストランは高いです』という二つの文をつなげて、一つの文にする練習問題。ある学生が『このレストランはおいしくて高いです』という文を作ったところ、他の学生から異論が出ました。『このレストランはおいしいけれど高いです』が正しい文なのではないかと。確かに、プラス、マイナスの視点で考えて、“おいしい”はプラス、“高い”はマイナス、違うイメージの言葉をつなぐときは逆接になるので、接続の問題としては後者が正しいということになります。

褒めるつもりで「〇〇さんの服は、いつもけばけばしいですね」などと言って嫌われないためにも、プラスかマイナスかの視点を持つのも大切だと思います。



## 特別寄稿 「Making the Invisible Visible」 ー不可視化されている人々の可視化をー



戒 妙子（プール学院大学 非常勤講師、おおさかこども多文化センター会員）

【編集部より】前号の特別寄稿「外国にルーツを持つ若者の就労をめぐる課題」の中で、戒さんは、将来の安定した雇用のために彼らの日本語力を上げ、さらに母語も含めたその「言語力」を「きちんとした仕事」に繋げてみせるには、私たちに何ができるのか？…という問題提起をくださいました。今回はその続きです――

★ ★ ★

2005年、「現代的形態の人種主義・人種差別、外国人嫌悪および関連する不寛容に関する特別報告者」Doudou Diene(ドウドウ・ディエン)氏が来日し、日本の実態に関する調査が行われました。翌2006年に国連人権委員会に報告書が提出され、そこには、「日本には人種差別と外国人嫌悪が確かに存在する」「マイノリティー集団が教育、雇用、健康、居住等へのアクセスにおいて周縁化され、不可視化された状態にある」といった趣旨のことが述べられていました。(http://imadr.net/books/world\_human\_rights\_20/)。ここでいう「周縁化」とは社会システムの外に追いやられることで、「不可視化」はその存在自体が見過ごされていることです。

昨年来、外国ルーツの若者の就職について、就職説明会一つとっても留学生の枠組みでも日本人学生の枠組みでもない彼／彼女達には、不利な点が多いという「周縁化」の実態をたびたび耳にしました。そこで、キャリア教育や就職支援を専門とされている先生に、支援の在り方について相談したところ、「そもそも、そういう若者の存在を知らない企業が多いのではないですか」という答えが返ってきました。



「存在の可視化」、これが外国ルーツの若者の就職を後押しするためにまず必要です。今号のOKoTaC通信で報告されている「府立高校生による地下鉄通訳ボランティア」=写真は、学校や生徒たちの生活圈以外、教育関係以外の外の社会との繋がりを紡ぐ、先進的な取り組みだと思います。そして、それをメディアで紹介してもらう、妙妙たる仕掛けです。このような活動を継続するためにも、求められるのが「言語力」の向上です。

「言語力」の向上を目指すというと、とかく具体的な指導法に考えが及びがちですが、私は、如何に心を支えやる気を引き出すか、つまりメンタリング(mentoring)が重要だと考えています。去る8月7日京都で「母語・継承語・バイリンガル教育研究会」の研究大会が開催され、オコタック会員の藩寧さんの発表を聞く機会を得ました。内容は、言語の側面からではなく、心の側面から問題行動を起こした生徒にアプローチした際の生徒と教員の変容に関する実践報告でした。藩さんの実践はまさにメンタリングだと感じました。

ここに「縁」という題で学生が書いた作文の一部を紹介します。「最も印象に残った縁は、高校時代の先生達に出会えたことです。…先生たちが私のやる気を引き出してくれたおかげで、日本で困ることなく、普通の生活を送れています」裏を返せば、日本語ができなければ普通の生活が送れないと学生自身が実感しているということです。外国ルーツの子ども・若者の日本語支援は「教育」の範疇を超え、人生を支える多文化ソーシャルワークだといっても過言ではありません。この作文はほんの一例ですが、内容は多くの学生が口にするものです。先生方は既にメンタリングを実践されているわけです。では、先生方のどのような行動や言葉がけが学生のやる気スイッチを押したのか、紐解いていく必要があります。そのために実践知をシェアできる機会が今後増えていくことを願ってやみません。そこには、外国ルーツの若者の就職を後押しするための多くのヒントが隠されているのではないのでしょうか。





## イベント情報

～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

### ▼『多文化にふれる えほんのひろば 2015』

～出会ってわくわく！いろいろなおはなし、せかいのいろいろなおともだち～

(子どもゆめ基金助成事業)

ずらりとならんだ世界の絵本約 700 冊を、自由なスタイルで楽しめる「えほんのひろば」も今年で 4 年目となりました！

日本語だけでなく、17 言語にわたる外国語の絵本も多数用意しますので、地域で暮らす外国から来た親子も参加でき、日頃なかなか目にする機会のない母語の絵本を楽しめる企画となっています。また日本人にとっても、多言語での読み聞かせやワークショップ、クイズラリーなどを通じて、多文化を身近に感じる機会となることでしょう。

日本人・外国人、おとも子どもも、絵本をなかだちに交流し、楽しい時間を過ごしていただければと願っています。外国からのお友だちも誘って、ぜひどうぞ♪

【日 時】 2015 年 10 月 17 日 (土) 11:00～16:00

18 日 (日) 11:00～15:30 (時間内出入り自由)

プログラム:

17 日 (土) 14:00～『多言語おはなし会』

18 日 (日) 13:30～『おはなしと音楽で韓国を感じてみよう』

講師: 柳 水香 (リュウ・スイヤン) さん

両日随時: ★『世界の文字で名前を書いてみよう』

いろいろな国の文字で自分の名刺を作るワークショップ

★ 多言語マルチメディア DAISY 絵本 体験コーナー

★ 多文化 “クイズラリー” にちょうせん!

【場 所】 大阪市立中央図書館 5 階 (大阪市西区北堀江 4-3-2)

地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅 7 番出口すぐ

【参加費】 無料 (だれでも参加できます。申し込みも不要です)

【後 援】 大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会

【主催・問合せ】 NPO 法人おおさかこども多文化センター

大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階



## NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいけいゆう))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO 法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

